

# 【ビル用マルチ】

高暖房

更新用 高暖房

# VRV H VRV QH

外気温度  
**-25℃**  
対応

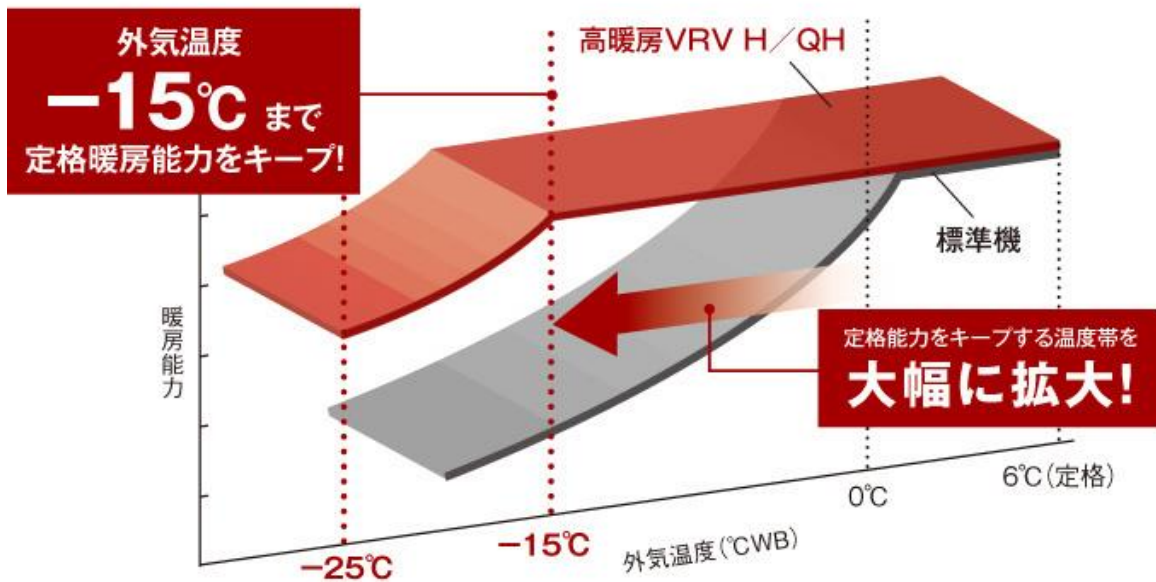
パワフル&タフネス  
暖房



## 【低外気温時の暖房能力について】

### 低外気温度に強いパワフル暖房

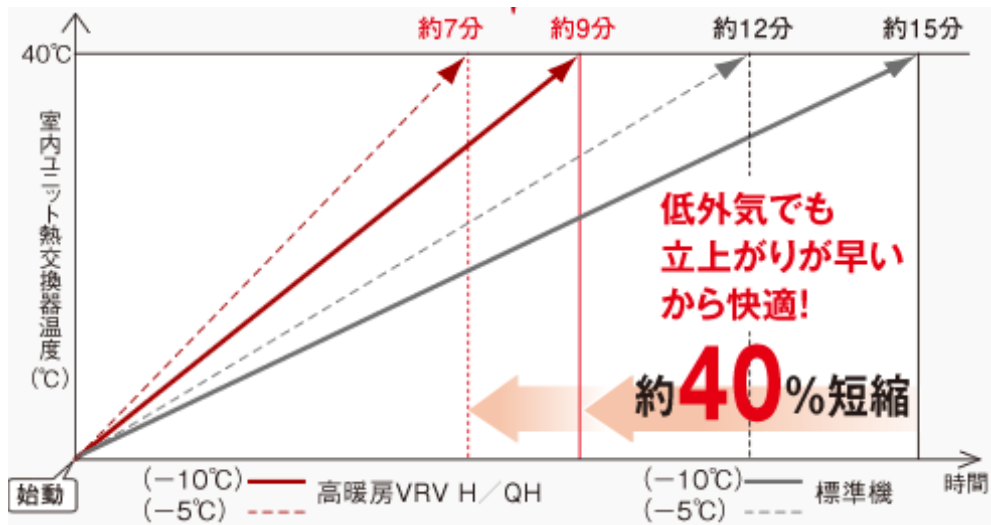
◎低外気温度時の暖房能力



## 【暖房立ち上がりについて】

低外気温時の暖房立ち上がり時間を、標準機と比較して約40%短縮しています。

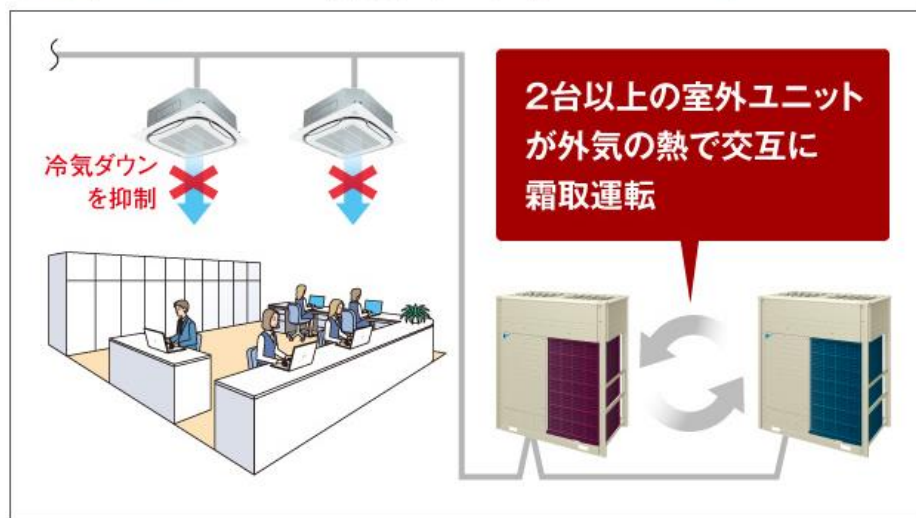
※立ち上がり性能は、14HPシステムを例にとっています。



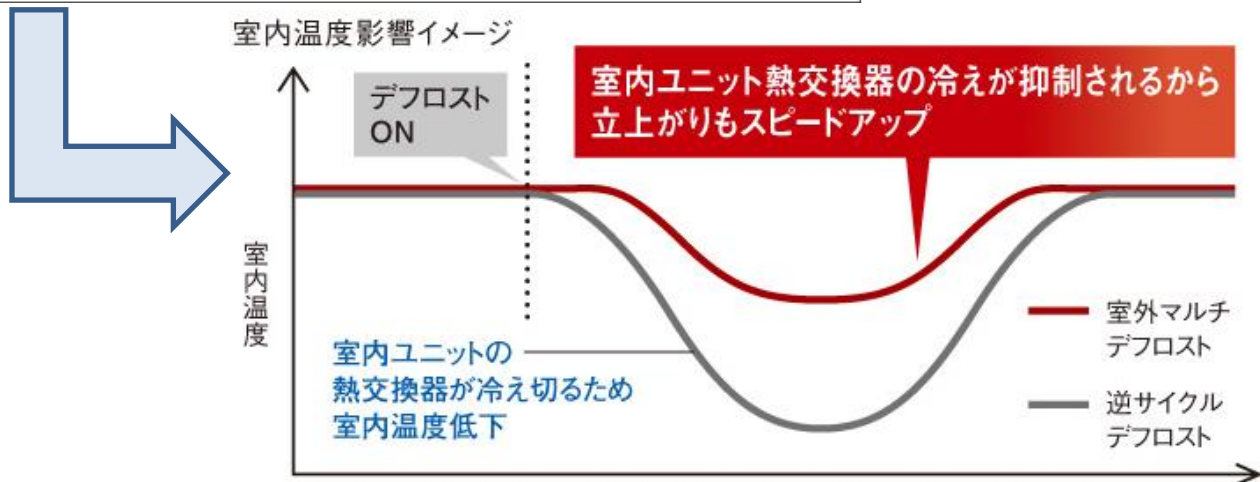
# 【除霜運転時について】

室内機からの冷気を抑えるために室外ユニットが交互に霜取します

◎ 室外マルチデフロスト機能 (室外ユニット2台以上のシステムのみ)



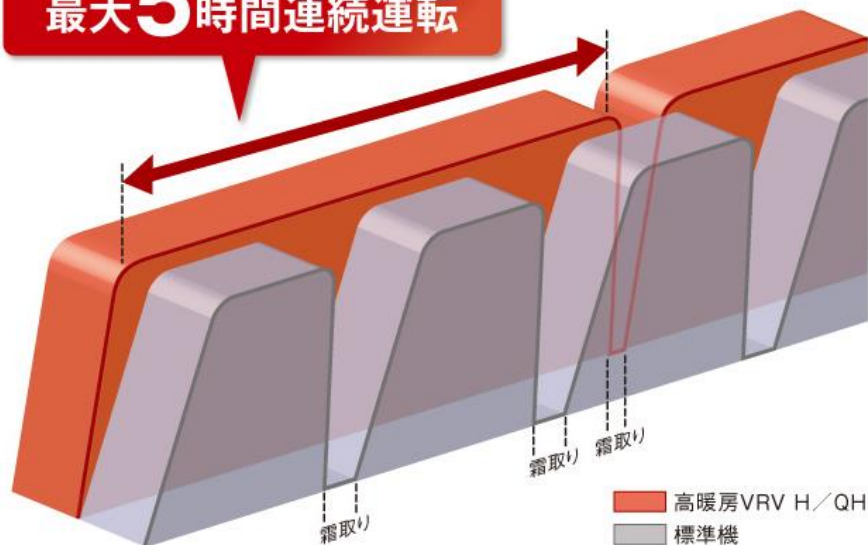
霜取運転時も快適性を維持



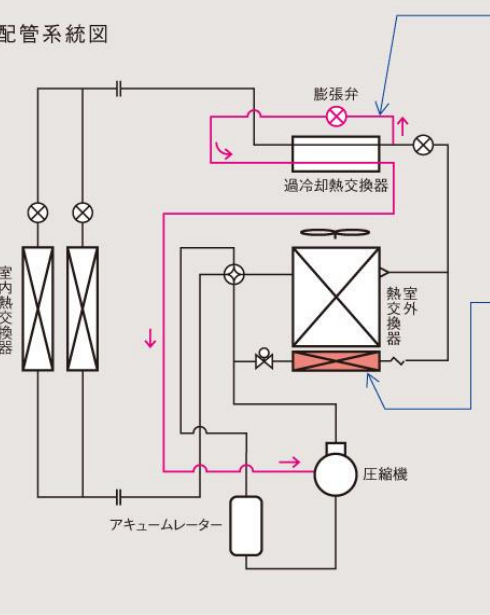
# 【連続暖房について】

寒さが厳しい日も安定暖房  
最大5時間連続運転

外気温度が厳しい日も連続暖房運転が可能

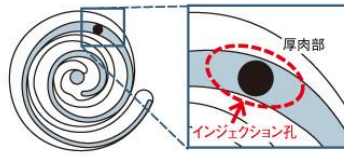


# 【暖房能力を支える技術】



## 冷媒循環量をアップする「中間インジェクション回路」

圧縮過程の途中にガス冷媒を導入し、冷媒の循環量をアップします。



## 着氷を抑えるタフネス設計

- 熱交換器下部と底板を暖めて着氷を抑えるホットガス回路を搭載。



従来の圧縮機



同じ回転数で  
冷媒循環量  
アップ!

新型圧縮機+  
中間インジェクション回路



- 熱交換器の真下に排水穴を大幅追加し、排水性を向上。

従来機



高暖房  
VRV H/QH



そのまま排水されるので着氷しにくい。

# 【優れた省エネ性】

## 新型スクロール圧縮機搭載

低負荷時+定格能力時の効率アップで年間を通じて運転効率を向上



## 全自動省エネ冷媒制御

システム全体の必要負荷をリアルタイムに把握し、機器の発停ロスを抑制



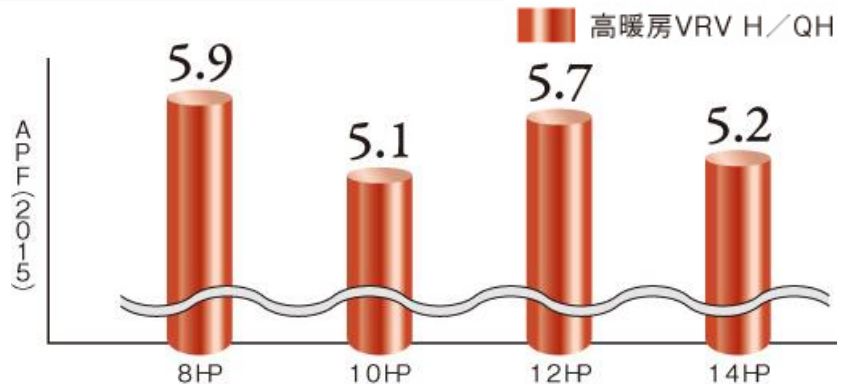
## 待機電力削減

圧縮機ヒーターの制御を最適化し、止まっている時も省エネ

## 業界トップのAPFを実現

※2015年9月現在 寒冷地向けビル用マルチのAPFにおいて

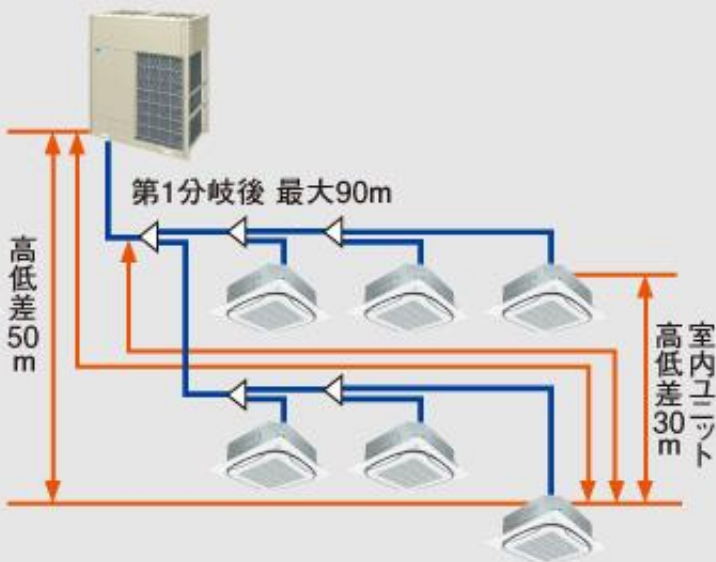
※APF(2015)の値で、算出条件は、JIS B8616:2015に基づきます。



## 【その他の特長】

### 業界トップクラスの配管自由度

配管実長  
165m以内  
総配管実長  
500m以内



#### システム高低差

標準で

改装対応

室外ユニット上設置の場合

50m → 最大90mまで可能 (VRV Hのみ)

## 【機種ごとの暖房時効率】

### ■暖房COP

VRV H	システム相当HP	8HP	10HP	12HP	14HP	16HP	18HP	20HP	24HP	28HP	30HP	34HP
	定格条件※2	4.41	3.81	4.18	3.60	4.39	4.09	4.23	4.04	3.60	3.80	3.79
	-5°CWB	2.98	2.63	2.74	2.63	2.98	2.80	2.81	2.65	2.63	2.62	2.68
	-10°CWB	2.40	2.13	2.22	2.12	2.40	2.27	2.27	2.15	2.13	2.12	2.17
	-15°CWB	2.25	1.99	2.11	2.05	2.25	2.11	2.14	2.04	2.05	1.98	2.05
	-20°CWB	2.03	1.81	1.91	1.86	2.04	1.91	1.97	1.91	1.86	1.81	1.83
更新用VRVQH	システム相当HP	8HP	10HP	12HP	14HP	16HP	18HP	20HP	24HP	28HP		
	定格条件※2	4.40	3.80	4.16	3.57	4.35	4.09	4.20	4.04	3.59		
	-5°CWB	2.97	2.62	2.73	2.61	2.95	2.80	2.79	2.65	2.62		
	-10°CWB	2.39	2.12	2.21	2.10	2.38	2.27	2.25	2.15	2.12		
	-15°CWB	2.23	1.98	2.10	2.04	2.23	2.11	2.13	2.04	2.05		
	-20°CWB	2.03	1.81	1.90	1.84	2.02	1.91	1.96	1.91	1.85		

(注) センシングフロータイプ室内ユニット容量100%接続時でのピーク時の値です。